①研究の成果と課題

１．部会研究の成果

今年度は、研究理論を全体へ広める１年にすることとした。研究内容に沿った授業の動画を作成し、部会員に見てもらうことで、研究内容を広く周知することができた。部会員からは今回の取組について次のような意見が出された。

・授業動画では、「しかけ」の部分だけがクローズアップされているので、研究内容が伝わりやすかった。
・他部会の会員にも PR して、石狩全体のものとしてもいいと思う。
・動画だけでは一部なので、指導案や授業全部を見たかった

また、提案動画をもとに協議・実践をした内容を感想として送っていただくなど、研究内容の周知だけでなく、部会員の方々も意欲をもってこの取組に参加することができたと考えている。部会員全体で情報を共有できるように、提言動画への部会員の感想も部会 HP に掲載した。

２．部会研究の課題

例年と違い、同じ授業を見て、その場ですぐに質疑・応答の場を作ることができなかった。今年度の状況を考えると、できる範囲で研究理論を周知することはできたと考えるが、部会員からの提言動画集の感想の中には、いくつか質問や自分の実践なども挙げられていた。役員からの理論の提案、部会員の意見、それらがお互いに一方通行にならないようにしていく必要がある。

②次年度の研究体制・重点

『数学的な見方・考え方を働かせて学ぶ子の育成』

～数学的活動の充実を通して～

数学的活動：事象を数理的に捉えて、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること

（新学習指導要領解説　算数編 P23）

【 研究仮説 】

数学的活動を充実させることにより、子どもは数学的な見方・考え方を働かせて学ぶことができる。

＜具体的仮説１＞

子どもの「問い」を生む問題提示や指導過程の工夫・改善によって、数学的な見方・考え方を働かせて学ぶことができる。

＜具体的仮説２＞

「発想の源」を問う場面設定や数学的表現を用いた思考・交流によって、数学的な見方・考え方を働かせて学ぶことができる。

＜研究内容１＞

数学的な見方・考え方を働かせるための手立て

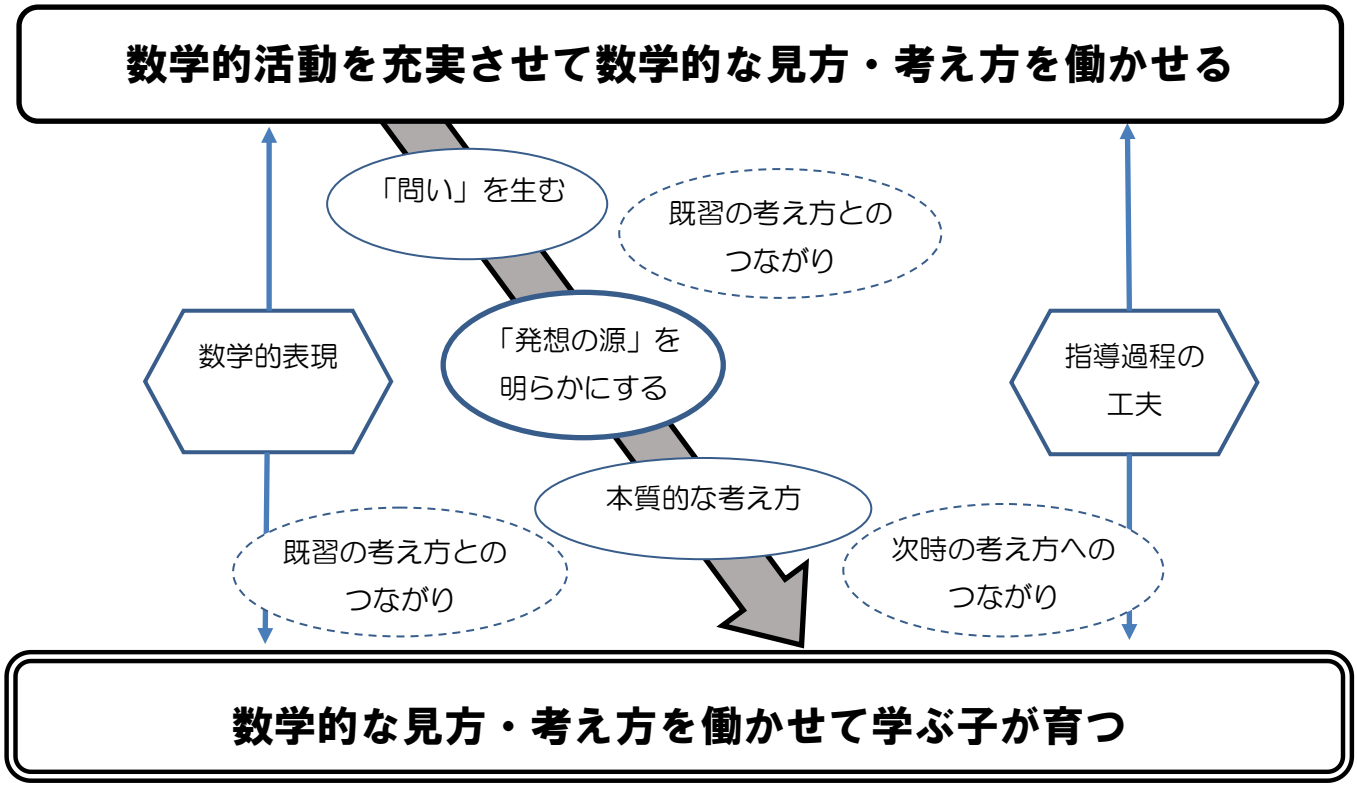
- 「問い」を生む問題提示のしかけ
- 指導過程の工夫

＜研究内容２＞

数学的な見方・考え方を共有させるための手立て

- 「発想の源」を問う場面設定
- 数学的表現を用いた思考･交流

＜1 単位時間または単元全体を通した指導のイメージ＞



【教育課程研究】

昨年度、教育課程委員が作成した新学習指導要領の「小学校追補編」の実践検証を行い、必要に応じて加除修正を行う。